

足立区議会議長 た だ 太 郎 様

足立区議会議員 17番 高 橋 まゆみ 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいのので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行 政 区 分	質 問 の 要 旨
1 施設営繕行政	1 持続可能な共存共生社会の実現のために (1) 引越しなどの住所変更や諸手続きは、通常でも朝から来てお昼に帰れることは少ない。他自治体では時間がかからない工夫が見られる中、足立区は戸籍住民課だけでも待ち時間は3時間にも及ぶこともある。長時間の待ち時間に子どものおやつや軽食を買おうと思っても、一番近くのコンビニでも区役所からは400m離れている。子連れや高齢者など順番待ちにすぐ行ける距離ではない。 本庁舎内に売店もしくはコンビニがある区は23区中14区、残り9区中7区は100m以内にコンビニがある。売店やコンビニはお菓子を買うだけでなく、突然の雨なら傘、または食事、文具、切手など、そのシチュエーションに応じて無限に需要はある。69万人の住民を支え、3千人を超える職員がいる本庁舎で、コンビニどころか売店もないのは「選ばれるにはワケがある。」というキャッチフレーズには遠く及ばない。区民の利便性確保のための売店もしくはコンビニ設置について、区の見解を伺う。
2 区民行政	(2) 待ち時間が長時間になる理由として、海外からの技能実習生や特定技能生の外国人受け入れ手続きに必要な施設が足立区にあり、受け入れ機関等が実施する生活オリエンテーションの受講には住民登録をしなければならないということが混雑の一要因となっているとの、区からの説明があった。外国人の転入、転出は、10年前は年間何名だったのか。あわせて直近の転入、転出人数を伺う。 (3) 長時間の待ち時間回避のため、対処方法として国内移動のかた向けの手続きと海外からの方の窓口は別にし、外国人窓口では行政手続きだけではなく生活習慣の違いの周知、ゴミ出しのルール、町会・自治会加入などの案内など、外国人受け入れのために特化した窓口
	2月14日 午前・午後11時45分受付 質問時間 20分

行政区分	質問の要旨
3 地域のちから 推進行政	すべきと考える。 口頭では伝わらないこともあるため、ビデオを作成してその方の母国語で視聴、理解してもらうことは、ご近所トラブル回避、地域活動の活性化に必要だと思うが、外国人に対するシステム構築、長時間の待ち時間解消、回避についてどのように対応していくのか、区の見解を伺う。 (4) 昨年度の外国人実態調査結果の中間報告を受けて、問題点が浮き彫りになったと考える。困り事があっても相談先は同じ国籍の友人知人と答える人が多く、観光ではなく日本に住んでいるにも関わらず日本語を学習しない方が半数にのぼり、日本語を話せなくても生活ができていたというデータであった。 例えば、災害が起こった場合、言葉が通じない相手と共助というのは考えづらく、地域内で分断が起こる事は必然である。さらに外国人同士でコミュニティができてしまうと、行政が実態を把握するのは非常に難しいと思われる。国会でも質問が出ていたが、中国の国防動員法、国家情報法などが万が一発令された場合、そのコミュニティが軍となり得るということがある。中国に限らず、日本の中に他国の地域ができてしまうということは、いろいろな意味で回避しなければならないと思うが、区の見解を伺う。 (5) きめ細かい対処によって「遠くの親戚より近くの他人」という関係性が理想であり本当の意味の共存ができるのではないかと思う。このことにより、今問題になっている技能実習生が毎年5千人規模で行方不明になっている問題も解決できるのではないかと考える。この方達を救ってあげるとは単なる偽善ではなく、足立区内の犯罪防止、さらにはその方達が母国に帰ったときに「日本はひどかった」と憎しみの気持ちを持たせるのか、「また行きたい日本」と言ってもらえるのかは、今後の外交問題にもつながる。先手先手で自治体レベルにおいて対策そして政策を進めていくべきかと考えるが、区の現在の問題意識とあわせて見解を伺う。
4 福祉行政	(6) 海外の方が増えていくことは今の日本ではある程度は必要と考えるが、過去に尼崎市で起こった児童手当に関する事案が懸念される。この騒動は、外国人男性が窓口を訪れ、タイにある修道院などの子ども554人と養子縁組し、タイ政府の証明書を示し児童手当8,642万4,000円を申請したという事案である。

	17番 高橋 まゆみ
行政区分	質問の要旨
5 子ども家庭行政	このような養子縁組を日本で行うということはおおよそ考えられないが海外では実際におこなわれたとなれば現在足立区は児童手当は3歳以上の子ども2人までは各1万円ずつ支給されるが、3人目からは1人3万円が支給される。10人程度なら26万円だが40人だと116万円となり100万円を超すこととなる。特定技能2号では家族も呼べるようになり、これまでの私たちの常識は通じない場面も増えてきている。区はこのような極端な事例が発生しないように、対応策を検討すべきと思うが、区の見解を伺う。 (7) これまでは外国人に絞った問題提起はセンシティブなこととして避けられる事案だったかと思うが、これだけ海外の方が増えてくれば諸問題も変わってくる。SNSなどで外国人の生活保護を問題視するコメントも多いが、正当な理由で受け取るとは外国人においては憲法上の取り決めはないが人道上の観点から国が認めている。 足立区内の生活保護世帯総数と世帯主が外国人である世帯数は何世帯なのか伺う。また、他区と比べてその数は多いのか少ないのか、どのような特徴があるのか、今後生活再建など日本人とは違う諸問題もあると思うが、あわせて区の見解を伺う。 (8) 私たち日本人が生活保護を受けようとする、資産の確認で預金通帳など全てをさらけ出し、仮に隠したとしても銀行に照会して、資産を確認できるシステムがある。しかし、海外の方は自己申告であり、万が一海外の銀行に隠していたとしても照会はできない。 日本で生活保護、児童手当、児童扶養手当、さらには医療費免除など受けながら、母国に帰れば裕福な生活ということもあり得る。これからさらに外国人の受け入れを進めるのであれば、何らかのシステム構築が必要と考えるが、区の見解を伺う。 (9) 令和5年第3回定例会において、明石市が行っているオムツの定期便を要望した。この政策の根底は、ただオムツを配達するのではなく見守り支援員と呼ばれる方が保護者にお会いし、子育ての悩みや困りごとを傾聴し虐待の発見にもつながるというものである。 今回、区長が記者会見で発表した子育て家庭訪問事業は、とても素晴らしい政策だと思う。しかし、前回の私の質問に、区は利用者アンケートではオムツが無償でもらえる事は嬉しいと答えているが、「相談」を希望する人は少ないため効果は薄く、提案は該当しないというような答弁だった。

	17番 高橋 まゆみ
行政区分	質問の要旨
6 学校運営行政	今回、区が発表した事業は、区民が求めたオムツですらなく、本を支給するものである。予算は1人あたり約5万円、10回の訪問で10冊の本の経費を差し引いても5万円はかからず、そのほとんどが委託業者へまわるのではないか。子ども中心の生活の中で毎月訪問を受け入れなければならない、保護者の負担は計り知れなくなる。本に対して思い入れのない方も中にはいると思う。 たかが本程度なら宅配ボックスに入れておいてと思うのは必然だ。対面で商品を選ぶことができたり、何かメリットとを感じる工夫があれば、おのずと時間も作ろうと思うのではないか。そこで信頼関係ができて初めて、子育て相談や生活の変化などをつかむことができるようになるのではないか。区民が求めるサービスとの組み合わせの再構築をすべきと思うが、区の見解を伺う。 (10) このような政策を進めたい意図は、「子育てしやすい足立区を作っていくこと」だと思う。子育てというのは十数年に渡り、時間、お金、体力を要する。行政としてやらなければいけないことは今回の取り組みのように精神的不安の払拭、そして心の安定に必須の経済的支援であり、今の経済状況では「学用品と修学旅行の無償化」、これが必要と考える。 前回の私の質問に対する区の答弁は、その政策をやろうとすると10億円超の予算が必要だが、ICTにもお金がかかりできないというものだった。このICTとは子ども達に与えているタブレットの更新に100億円かかるというものだ。タブレット1台を渡されることと、品川区、荒川区、葛飾区のように、書道道具、裁縫セット、絵の具セット、ドリル、補助教材全てに加え、修学旅行費や制服までを無償とすることと、どちらが区民が求める政策なのか。区の見解を伺う。
7 産業経済行政	2 シルバー人材センター会員の働き方改革について (1) 年々、シルバー人材センター会員になる方の年齢層が高くなっている。一概に道楽で仕事をしたいという人ばかりではなく、支給される年金に物価高騰などの社会状況が合致していないため、働かなければならない方も少なくないと思う。 しかし、その仕事内容はというと、暑い中、寒い中、高齢者に重たいチラシを配布させたり、公園の清掃や土手の見守り、樹木の選定などがあり、一歩間違えれば熱中症や転倒、過度の労働による持病の悪

	17番 高橋 まゆみ
行政区分	質問の要旨
	化等、若い労働者では起こり得ない危険性をはらんでいると思うが、区はどのような認識を持っているのか伺う。 また、例えば体温調節ができない高齢者には空調服を支給するなど、最低限の健康を守る対応をシルバー人材センターに求め、区民を守る政策が必要と考えるが、区の見解を伺う。 (2) シルバー人材センターでは、入会時に履歴書などは書かないと聞いた。しかし、ホームページには「高齢者の豊富な経験、知識、技能を、ぜひご活用ください。」と載っている。会員の人生のバックグラウンドは、私たちの比にならないくらいの人生経験を持っているはずだと思う。 子育てに関わってこなかった方は少ないと思うが、放課後子ども教室や学童保育室などの場で、ボランティアではなく仕事として関わっていくことができれば、子どもたちは話を聞いてくれる大人が増えることでSOSを出しやすくなり、高齢者は子どもたちから元気をもらい、生きがいに代わっていけると感じるが、区の見解を伺う。